

平成20年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける伝統と再生

○研究組織

研究代表者：高木智見

研究分担者：添田健次郎、田中誠二、瀨瀬厚、橋本義則、馬彪

○研究の概要と結果

東アジア文化を理解するうえで極めて本質的な問題であり、かつまた複雑な様相を呈する「伝統と再生」について、メンバー各自がそれぞれの専門分野においてその実態と性格を明らかにするための研究を行い、以下に列挙する着実な成果を上げた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 添田, 「日本語を学生と学ぶ」, 『山口国文』第32号, pp.3-21, 2009年3月。
- * 田中, 「萩藩前期の山代紙」, 『山口大学文学会志』59巻, 43~65頁, 2009年3月。
- * 田中, 「萩藩中期藩財政研究序説」, 『やまぐち学の構築』5号, 1~19頁, 2009年3月。
- * 田中, 山口県史講演録「天保期の萩藩財政」, 『山口県史研究』17号, 89~105頁, 2009年3月。
- * 瀨瀬, 「戦後日本の政治と韓日関係 帝国日本の解体と平和国家日本への模索」, 壇國大學校日本研究所編『日本学研究』第24号, 2008年5月, 5~36頁, 韓国・ソウル市。
- * 瀨瀬, 「日本人の歴史認識」, 中国・旅順博物館編刊『旅順博物館学苑』第2号, 2008年9月刊, 187~203頁, 中国語, 吉林文史出版社。
- * 瀨瀬, 「侵略戦争・植民地の記憶と忘却」, 韓国日本思想史学会編刊『日本思想』第15号, 2008年12月, 3~50頁, 韓国・ソウル市。
- * 瀨瀬, 「日米軍事一体化のもとで繰り返される文民統制と憲法からの逸脱行為の果てに」, 日本共産党中央委員会編刊『前衛』第839号, 2009年2月, 38~47頁。
- * 瀨瀬, 「歴史の記憶と忘却 記憶の取り戻しとしての平和思想」, 山口大学人文学部異文化交流研究施設編刊『異文化研究』第3号, 2009年3月, 3~29頁。
- * 瀨瀬, 「平和破壊と平和実現の攻防のなかで 軍事と歴史の視点から考える9条改憲の動き」, 長崎平和研究所編刊『長崎平和研究』第25号, 2008年4月30日, 6~26頁。
- * 瀨瀬, 「本格化する派兵恒久法制定への動き」, 軍縮市民の会・軍縮研究室発行『軍縮 問題資料』第339号, 2008年5月, 36~45頁。
- * 瀨瀬, 「派兵恒久法制定への新たな展開」, 尾崎行雄記念財団編『世界と議会』第529号, 2008年11月, 19~23頁。
- * 瀨瀬, 「田母神発言の真意」, 軍縮市民の会・軍縮研究室発行『軍縮 問題資料』第330号, 2009年2月, 2~11頁。

- * 瀧瀬, 「新軍部の第一歩か」, 『図書新聞』第2000号, 2009年1月1日, 第3, 4面。
- * 瀧瀬, 「田母神問題の背景にあるもの」, 社会主義協会編刊『科学的社会主義』第130号, 2009年2月, 52~57頁。
- * 橋本, 「東アジア比較都城史の試みー東亜比較都城史研究会五年のあゆみー」, 『歴史と環境』4, p498-522, 平成21年
- * 橋本, 「秦漢の離宮址ー漢甘泉宮址を中心とした踏査ー」, 『異文化研究』3, 全4頁(印刷中), 平成21年
- * 橋本, 「ローマ帝国北辺の二つの長城ーハドリアヌスの長城とアントニウスの長城を踏査してー」, 『山口大学異文化研究交流施設ニュースレター』9, 全1頁, 平成20年
- * 馬, 「龍崗秦簡文字編」, 『アジアの歴史と文化』第12号, 2009年3月。
- * 馬, 「龍崗秦代簡牘における古文字の特徴」, 『山口大学文学会志』第59巻, 2009年3月。
- * 馬, 「『龍崗秦簡』禁苑闌入律簡の分類研究」, 『異文化交流』2009年3月。
- * 高木, 「湖南史学の特徴と形成」, 関西大学文化交渉学研究拠点『東アジア文化交渉研究』別冊3号, pp75~128, 2008年12月
- * 高木, 「頒福之王」, 『日本中国史研究年刊』2006年度, pp63~87, 2008年5月

(2) 口頭発表(発表者名、テーマ名、学会等名、年月日)

- * 瀧瀬, 「報告:日本敗戦の背景」(中国大連市歴史文化研究所主催国際学会、2008年9月19日, 大連市旅順博物館国際会議場, 中国・大連市。
- * 瀧瀬, 「講義:近代日本の政軍関係をめぐって」, 中国・北京大学歴史系, 2008年10月17, 18日, 中国・北京市。
- * 瀧瀬, 「報告:侵略戦争・植民地支配の歴史の記憶と忘却」, 2008年韓国日本思想史学会 韓国淑明女子大学校, 2008年11月23日, 韓国・ソウル市。
- * 瀧瀬, 「報告:日本の戦争責任 歴史の記憶と忘却をめぐって」, 山口大学学長裁量経費研究プロジェクト・平和研究と文化研究の融合, 国際セミナー, 山口市・ホテルかめ福, 2009年3月15日。
- * 瀧瀬, 「講義:日本の政治体制と保守主義」, 台湾・世新大学特別講演, 2009年3月19日, 台湾・台北市。
- * 瀧瀬, 「講演:新日本軍国主義の現段階」, 人間出版社主催出版記念講演, 台湾教育師範大学, 2009年3月20日, 台湾・台北市。
- * 橋本, 国際シンポジウム「都市と環境の歴史学:5年間の成果」, 平成21年3月。
- * 橋本, 「東アジア比較都城史の試みー東亜比較都城史研究会五年のあゆみー」, 東アジア比較都城史研究会, 平成21年1月。
- * 橋本, 「ふたたび文献史料から見た日本古代の複都制」, 東アジア比較都城史研究会, 平成21年11月。
- * 橋本, 「後期都城の発掘調査の現状と課題ー研究史を踏まえてー」
- * 高木, 関西大学文化交渉学教育研究拠点第2回研究集会, 「内藤湖南への新しいアプローチ」, 「湖南史学の形成と特徴」, 2008年6月28日。

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- * 額 額, 単著, 『日本軍国主義の過去と現在』, 吉林文史出版社, 中国・長春, 2008年9月, 全308頁, 中国語・簡体字。
- * 額 額, 単著, 『新日本軍国主義の現段階』, 人間出版社, 台湾・台北, 2009年3月, 中国語・繁体字, 全348頁。
- * 額 額, 共著, 『基地を持つ自治体の闘い それでも岩国は負けない』, 金曜日, 2008年12月, 全156頁, 「第二章 米軍再編の狙いと影響 自由と自立のために重要な岩国の反基地闘争」, 50～58頁, 執筆担当。

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記、湯川洋司

研究分担者：坪郷英彦、平野芳信、根ヶ山徹、森野正弘

研究協力者：徳永彩理

○研究の概要と結果

【研究概要】

今日のように機械文明が発達すると、人が本来持っていた生活感覚を忘れてしまいがちであるが、伝承文化に接すると昔はこうであったのだ、こうした「宝物」とも言える貴重な文化をどうかして残していかなければならないという切実な思いに駆られる。我々のグループはこうした伝承文化を見直す観点に立ち、東アジアにおける文化伝承の形態とその価値を明らかにするため、研究プロジェクトを構築し、それぞれの専門を生かして、文学と民俗の方面から研究を進める。

①日本の祭儀などの民俗信仰の場や能楽のような伝統芸能において観察される存在であり、伝承文化の基層を担う重要なモチーフの一つである「翁」の造形について、平安期の文学作品が如何なる役割を果たしているか、伝承の観点から考察する。ハレの日に村落共同体に来临し、祝福の詞を唱える「訪れ神（＝漂泊芸能民）」と想定されている「翁」はやがて様式化され、能楽の「翁」へと辿り着くのであるが、その過程で平安期の文学作品はいかなる関与を見せているのか、折口信夫・山折哲雄・鎌田東二・宮田登などの論考を基盤としつつ、「翁」像の具体化をはかりながら、『伊勢物語』や『源氏物語』の「翁」について比較検討を加える（担当：森野正弘）。

②東アジア諸地域における諸ジャンル間の説話類型を比較検討するため、日本古典文学研究で行われてきた「話型論」を近代文学研究に適用して、日本・韓国・中国における文学作品及び映像作品間の話型（構造）についての比較研究を進め、さらにその成果を「村上春樹研究」の一環として発表する（担当：平野芳信）。

③中国の古典文学が日本に伝来する実態を解明するため、北宋の黄庭堅の詩が室町時代の禅僧の解釈を通じて紹介された実態を文献調査する。具体的には明応八年（1499）の自跋がある万里集九『帳中香』が月舟寿桂講本にどのように受容されているか、『帳中香』・月舟寿桂講本の両者を抄写したという彭叔守仙抄本を手がかりに解明する（担当：根ヶ山徹）。

④中国の民間文芸が古代の教化思想を継承して現代まで伝承されている実態について、台湾に伝承する歌物語「歌仔冊」を対象として研究する。「歌仔冊」は漢川善書に匹敵する民衆教化の文芸であり、テキストは現在でも出版されているが、その伝承者が少なくなっており、方言文学であることもあって、呉守礼・王順隆氏など台湾の研究者はいるが、日本人の研究者は見られない。本年度はこのジャンルの研究を試み、国宝級の歌唱者楊秀卿・洪瑞珍氏の指導を受けながら、伝統的福建文芸の解析を行う（担当：阿部泰記）。⑤地域住民の家族の思い出や子供時代の思い出など時間認識を刷り込んだ物質文化の伝承について、祭礼用具の調査を中心に日中比較研究を行う。昨年度は祭礼用具として八王子の山車の調査を実施したが、本年度は貴州大学少数民族語言文化研究所と共同して4日間の祭礼調査を企画し、龍舟などの祭礼用具の役割について調査分析を行い、日中間の物質文化の比較研究を進める。調査先、日程等については9月上旬を予定するが、少数民族語言文化研究所所長王良範教授、法学院余貴忠教授と調整し最終決定することに話を進めている（担当：坪郷英彦）。⑥今日に伝承される正月の祝い方について研究を進める。昨年度は和歌山市を中心に調査を行ったが、本年度は主として文献による資料収集を進める（担当：湯川洋司）。

【研究結果】

①古代能楽について、京都御所、京都文化博物館、源融河原院址、鳥戸野陵、宇治源氏物語ミュージアム、橋姫神社にて関係資料の収集を行い、同志社大学開催の雅楽シンポジウムで能楽に関わる学術的情報収集を行い、森野正弘「語り物を担う芸能者たち」（資料集『東アジア伝統芸能の世界・2008山口大学東アジア国際学術フォーラム』2008年11月収）として発表した。②近代話型論について、表現学会（愛知学院大学）に出席して研究方法論を検証し、大宅壮一文庫で資料を収集し、研究成果を2008年度韓国日本近代文学会春期大会基調講演「村上春樹にとっての関西と東京」（2008年4月5日、南ソウル大学校）として発表した。③黄庭堅詩の受容について、抄物関係資料を収集して、万里集九『帳中香』の東洋文庫所蔵万里集九自筆本と内閣文庫所蔵活字本との差異、および月舟寿桂講本と彭叔守仙本との差異について考察し、現在、研究成果をまとめている。④台湾唸歌について中興大学助理教授林仁昱氏、および台北唸歌団の楊秀卿・王玉川・鄭美・葉文生氏らと11月開催の山口大学東アジア国際学術フォーラムの打ち合わせを行って関連資料をいただき、さらに台湾国家図書館などで関係資料の収集を行い、阿部泰記「狂言と唸歌における英雄伝説の表現」（東アジア研究7号、2009年3月）として発表した。⑤貴州民族博物館で祭礼資料調査、西江で地元民俗研究者と情報交換、郎徳では地神祭りの調査とシャーマンへの聞き取りを行って祭礼の実態を知った。今後調査を継続し、成果をまとめる。前年度の調査結果を日本民具学会で坪郷英彦「八王子祭山車はどのように認識されているか」として発表した（2008年12月8日：お茶の水女子大学）。⑥民俗学関係文献を購入し、「正月の祝い方」に関する資料の収集及び検討の参考とした。日中文化の比較を視野に入れた研究の可能性も見えてきた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

* 森野正弘、語り物を担う芸能者たち、資料集『東アジア伝統芸能の世界・2008山口大学東ア

ジア国際学術フォーラム』、2008年11月15日、20～26頁

*阿部泰記、狂言と唸歌における英雄伝説の表現、東アジア研究、7号、2009年3月、1～13頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

*「東アジアにおける文化伝承の研究」報告会、2009. 4. 16, 18:00～20:00、人文学部第3演習室

1. 森野正弘：平安期文学に描かれる「翁」像の造形
2. 平野芳信：東アジア文化圏における村上春樹作品の伝播とその影響
3. 根ヶ山徹：室町時代禅僧による「黄庭堅」注解に関する研究
4. 阿部泰記：台湾唸歌「哪吒鬧東海」における表現の特徴
5. 坪郷英彦：貴州省における少数民族祭礼調査報告
6. 湯川洋司：正月の祝い方について

*平野芳信、村上春樹にとっての関西と東京、2008年度韓国日本近代文学学会春期大会基調講演、2008年4月5日、南ソウル大学校

○プロジェクト名

グローバル化下の東アジアの経済発展と諸問題

○研究組織

研究代表者：植村高久、成富 敬

研究分担者：立山紘毅、石 龍潭、尹 春志、古賀大介

研究協力者：張 文芳、三輪典生、周 平、田 問耕、崔 春婷

○研究の概要と結果

本年度はとくに中国に対する実地調査を中心に、急速に変化しつつある東アジアの現状を分析した。東アジア経済において中心的地位を占める中国経済は、めまぐるしく変化しており、現在の問題を常にフォローしなければ、すぐに時代遅れになってしまう。そうした東アジアを動的にとらえることを念頭に、中国に対する実地調査を通じて、様々な問題の現実的位相を捉えることを目標とした。

具体的には①尹教授を中心とした、産業論的な東アジア地域連携の研究と、②東アジア研究科が組織的に取り組んできた課題であるが、植村、石教授を中心にした中国の後発地域である西部地域の研究、③成富教授を中心にした情報領域の研究において成果を挙げた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

*尹春志「東南アジア経済統合の現状と課題：地域化と地域主義の論理から見たASEAN」、『東亜経済研究』第62巻第2号、2009年

*成富敬「五重対角連立一次方程式の並列解法」、『山口経済学雑誌』第57巻第5号、pp.97-101.

2009年。

- * Guangwei Yuan, Qi-Wei Ge, Takashi Naritomi, 'A Japanese Word Study Model for Chinese Learner by Using Petri Net', Proc. The 23 rd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications, ITC-CSCC 2008, pp.809-812., 2008.
- * 袁広偉, 葛崎偉, 成富敬, 丁佐華. 「第二言語としての日本語の能力向上を目指した E-Learning システムの設計」, 『信学技報』, コンカレント工学研究会 (CST), vol.108, no.278, pp.89-94, 2008年.
- * 北村光一, 植村高久, 成富敬, 林徳治「日中における高等学校数学教育の現状と課題－滋賀県と貴州省の高等学校を対象として－」『教育情報研究』日本教育情報学会, vol.24, no.4, pp.27-36, 2008年
- * 植村高久「書評『21世紀とマルクス——資本システム批判の方法と理論』(大谷禎之介編)」、『季刊 経済理論』第45巻第3号、102-104ページ、2009年。

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

- * 尹春志「第5章 東アジアの成長と生産ネットワーク変容の力学——エレクトロニクス部門を中心に」、坂田幹男編『中国経済の成長と東アジアの発展』ミネルヴァ書房、2009年6月。
- * 松井範惇、石 龍潭ほか著『中国西南地域の開発戦略』(岡本信広編、JETROアジア経済研究所、2008年)
- * 藤原貞雄・植村高久「貴州省の特徴と展望」(藤原貞雄ほか編『貴州省の開発』、九州大学出版会、2009年、刊行予定)
- * 植村高久「『社会主義市場経済』と改革開放」(菅原陽心編『中国社会主義市場経済の現在』、御茶ノ水書房、31-44ページ、2009年刊行予定)。

○プロジェクト名

東アジアにおける企業、人材開発、経営、市場

○研究組織

研究代表者：石田成則

研究分担者：長谷川光圀、中田範夫、城下賢吾

○研究の概要と結果

【研究概要】

本プロジェクトでは、代表的なグローバル企業に対してアンケートおよびヒアリング調査を敢行し、海外進出の成功要因とその失敗原因を解明することで、個別企業における望ましい経営戦略、マーケティング手法、財務、会計そしてリスク管理を明示する。

日本企業が国境を越えて経営活動を展開する場合、ひとつの経営単位のなかに異なる国、政治・経済そして文化風土を抱え込むため、多様な政治・経済そして文化への適応問題に直面する。最大の進出国である中国を例に取れば、中国の改革・開放が始まって以来の20数年の間、日本企業

の対中投資が進むにつれ、成功した企業が少なく。その成功要因としては、先進的な技術や経済的な要素だけでなく、人材・財務・経営計画にかかわる様々なリスクをうまく管理しながら、文化や習慣そして価値観の壁を乗り越えたことが挙げられる。反面、進出企業のなかにはリスク的な要因を考慮せず、またリスク分析や管理が不十分なために事業展開が行き詰った日本企業も少なくない。今後、中国をはじめとした東アジア諸国の市場を狙っている世界各国の多国籍企業の間で生じている激しい競争に勝ち抜こうとする日本企業にとって、優れた技術や資金調達、販売ルートだけではなく、目に見えない経営管理上の違いによるギャップを重視し、問題の解決策を模索することが大切である。そこで、相手国の国情を十分に配慮した経営戦略を打ち立て、それを実行に移すことができるだけの組織を構築し、また必要な人材を育成することが不可欠となる。本プロジェクトの目的は、こうした広範にわたる海外進出企業の課題に対して、リスク管理の統一した視点から、有効な打開策を提示することである。

なお、20年度では、海外進出企業にこだわらず、これからわが国の技術力の輸出が有力視される、国内産業に的を絞った調査を実施した。具体的には、従来の製造業に加えて、福祉サービス産業に属する病院や調剤薬局、そして同じく公共性が強く新たにPFIが導入された学校、刑務所や環境リサイクルにおける経営戦略、マーケティング手法、財務、会計そしてリスク管理について、実態調査を敢行し、そこから得られた知見を纏める作業を行った。

【研究結果】

- 1) 病院における組織や会計システムの実態調査を通じて、公益性の強い事業において、コスト管理を重視した管理システムを構築する手法を研究し、成果を挙げた。
- 2) 同様に北九州市にある環境リサイクルセンターでの実態調査を敢行し、ならびに運営会社と研究会を開催し、調査研究の検討を行った。そしてこうした事業におけるサービスを維持するための品質コストマネジメント手法を研究し、その成果を紀要に発表した。

このようにして、20年度は、研究領域、調査対象の業種を絞り込むことにより、体系的な成果を纏めることができた。病院経営だけでなく福祉施設なども研究領域に含め、共通した問題意識とテーマの下で、調査研究をすすめる。

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- *長谷川光圀（2008）「カオスと組織進化（1）」山口経済学雑誌第57巻第3号、13-35頁。
- *長谷川光圀（2008）「カオスと組織進化（2）」山口経済学雑誌第57巻第4号、1-25頁。
- *長谷川光圀（2008）「現代組織論の課題と事例研究」山口経済学雑誌57巻第5号、1-40頁。
- *長谷川光圀（2009）『組織進化論—自己組織化と事例研究—』創成社。
- *長谷川光圀（2009）「トヨタ自動車工業の組織システムのゆらぎと構造進化」山口経済学雑誌第58巻第1号、15-65頁。
- *中田範夫（2008）「療養病床の再編に関する調査研究—都道府県庁・医師会への郵送調査—」山口老年総合研究所、21号、7-31頁。
- *中田範夫・高那（2008）「地方自治体の行政評価方法に関する研究—郵送調査を中心にして—」山口経済学雑誌、41-70頁。

- * 中田範夫 (2008) 「収益管理からコスト管理へ (第5章担当)」医療経営教育協議会編『医療マネジメント－医療の資質向上のための医療経営学－』日経メディカル、112-120頁。
 - * 中田範夫 (2009) 「病院の経営管理機能についての第4回調査－財務状況、BSCおよび原価計算を中心として－」山口老年総合研究所年報22号、95-128頁。
 - * 森保洋・城下賢吾 (2008) 「投資パフォーマンスと取引量の関係-自信過剰仮説の観点から－」、証券経済学会年報、43号、185-189頁。
 - * 城下賢吾 (2009) 「株式市場のアノマリーと財務決定」榊原・砂川編『価値向上のための投資決定』、中央経済社、197-213頁。
 - * 城下賢吾 (2009) 「行動ファイナンスと個人の貯蓄行動－アメリカのサーベイを中心に－」山口経済学雑誌、57巻5号、677-694頁。
 - * 城下賢吾・森保洋 (2009) 『日本株式市場の投資行動分析』中央経済社。
 - * 石田成則 (2008) 「PFI事業の新動向と品質、性能保証」環境施設マネジメント46号、61-66頁。
 - * 石田成則 (2009) 「PFI事業にかかる意思決定とリスク管理」東亜経済研究第67号第2号、133-149頁。
 - * 石田成則 (2009) 「連邦・州規制が米国医療保険に与える影響」あいおい基礎研レビュー第7号、42-55頁。
-

○プロジェクト名

東アジアにおける都市高齢化と社会政策

○研究組織

研究代表者：小谷（三浦）典子

研究分担者：辻正二、横田伸子、柳澤旭、塚田広人、濱島清史

研究協力者：段薇清、張雲武、雷秀雅、作田誠一郎、王上、頼明俊、友岡有希、王美玲、范ペイイ、王ハイユ

○研究の概要と結果

東アジア各国は、産業化とともに都市化が進み、いずれも人口の高齢化が深刻な問題となっている。高齢化社会への対応は、家族による自助と国家社会による公助が期待できないなかで、産業化とともに進展した都市化が地域社会（コミュニティ）を解体してきているにもかかわらず、コミュニティやコミュニティをこえたネットワーク型のアソシエーションを核にした、新たな共助の枠組み作りが期待されている。

本プロジェクトは、東アジアにおける高齢化に伴う高齢者サービスのあり方、地域福祉のあり方などの課題を追求することを目的として、まず、その背景となる社会的意識や高齢者施設の現状を、日本、中国、台湾、韓国において把握し、高齢者自身の生きがい、雇用問題、および、高齢者をとりまく扶養、介護サービスなどのあり方の実証的分析から、東アジアに通底する高齢化への対応を提言していく。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 王上・三浦典子, 「中国における高齢化の課題と展望——大学生の比較意識調査をてがかりに——」, 『社会分析』33号, 81-103頁, 2006年3月。
- * 作田誠一郎・辻正二, 「日本の若者の老人観と老人意識の変容—老人差別意識を中心として—」, 『社会分析』, 33号, 147-166, 2006年3月。
- * 荘秀美・頼明俊, 「台湾の大学生が抱く高齢者像に関する考察」『社会分析』, 33号, 61-80, 2006年3月。
- * 三浦典子・辻正二, 「東アジアの若者の高齢者意識と社会意識——東アジアプロジェクト研究中間報告——」, 『東アジア研究』第5号, 95-116, 2007年3月。

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

東アジアプロジェクト研究の成果に基づいた報告

- * 三浦典子, 「東アジアの若者の生活意識と生きがい 一日・中・台の学生比較調査から」, 第108回日本社会分析学会研究例会, 2004年12月25・26日, 台湾国立政治大学。
- * 辻正二, 「東アジアの若者の老人観と高齢者意識」, 第108回日本社会分析学会研究例会, 2004年12月25・26日, 台湾国立政治大学。
- * 作田誠一郎, 「日本の若者における高齢者像とその考察」, 第108回日本社会分析学会研究例会, 2004年12月25・26日, 台湾国立政治大学。
- * 王上, 「中国の大学生における高齢者意識と生き甲斐」, 第108回日本社会分析学会研究例会, 2004年12月25・26日, 台湾国立政治大学。
- * 荘秀美・頼明俊, 「台湾の大学生の老人観と『生きがい』」, 第108回日本社会分析学会研究例会, 2004年12月25・26日, 台湾国立政治大学。

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- * 小谷（三浦）典子・辻正二・作田誠一郎・王上・荘秀美・頼明俊, 山口大学東アジア研究科5年プロジェクト研究報告『東アジアの若者の高齢者意識：日本・中国・台湾の大学生比較調査から』, 2005年3月, 全76頁
- * 小谷（三浦）典子・林顯宗・荘秀美・柳澤旭・頼明俊・范ペイイ・辻正二・荘秀美・頼明俊・王美玲・王ハイユ, 『台湾における都市高齢化と社会意識』, 溪水社, 2010年3月（刊行予定）。

○プロジェクト名

東アジアの教育における現代的課題の探求と検討

○研究組織

研究代表者：福田隆眞、葛崎偉

研究分担者：名島潤慈、西村正登、藤原マリ子、森下徹、林徳治（前期のみ）

研究協力者：麻麗絹、張雅晴、馬新媛、山根望、エン・コウイ、チョウ・ユ、

○研究の概要と結果

本プロジェクトは教育学、心理学、教育内容の観点から、東アジア地域における教育課題を探求しそれぞれの分野での検討を行った。教育学では教員養成論、現代的道徳教育を主として検討した。心理学ではアジアにおける自殺予防対策の検討を行った。教育内容としては、美術でマレーシア、台湾の美術運動と教育、歴史では地域史教育の素材作成と地域史研究の方法について検討した。国語では歳時記の研究により国語教育の検討を行った。また、アジア諸国で発展している情報教育においては、ネット理論に基づいたシステム技術の開発を行った。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 福田隆眞・張雅晴、「戦後初期から1960年代までの台湾芸壇の変遷について」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要
- * 福田隆眞「美術教育の背景としてのマレーシアの美術と美術作家について」山口大学教育学部研究論叢
- * 馬新媛・西村正登「近代日本における道徳教育の変遷」『山口大学教育学部研究論叢第58巻 第1部・第2部』pp.75-86
- * 名島潤慈・山根望（2008）妊娠期における夢のなかの感情についての検討。山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，25，375-386.
- * 山根望・名島潤慈（2008）初産婦の夢—妊娠・育児期の夢に現れた動物の意味の検討 山口大学教育学部研究論叢，58，第3部，241-249.
- * 袁，葛，成富：“中国人日本語学習者向けの単語学習ベトリネットモデル”，電子情報通信学会2008年総合大会講演論文集，p.225（2008）.
- * 西田，林，中田，葛，吉村：“手書き文字認識のための特徴グラフのマッチングアルゴリズムの提案”，電子情報通信学会信学技法，Vol.108，No.79，pp.25-30（CST2008-9）（2008）.
- * 中原，大塚，葛，中田，森山，斗納：“遺伝的アルゴリズムによる通信時間を考慮したマルチプロセススケジューリング手法の提案”，電子情報通信学会信学技報，Vol.108，No.278（CST2008-33），pp.59-64（2008.11）
- * 袁，葛，成富，丁：“第二言語としての日本語の能力向上を目指したE-Learningシステムの設計”，電子情報通信学会信学技報，Vol.108，No.278（CST2008-38），pp.89-94（2008.11）
- * 西田，林，倉持，二宮，中田，葛，吉村：“手書き文字認識のための特徴グラフの類似性判定アルゴリズム”，電子情報通信学会信学技報，Vol.108，No.278，pp.95-100（CST2008-39）（2008.11）
- * 大塚，中原，葛，中田，森山，斗納：“通信時間を考慮したタスクグラフの最適実行時間の上下界について”，電子情報通信学会信学技法，Vol.108，No.，pp.1-4（CST2008-41）（2009.01）.
- * 山口，葛，中田：“公開鍵暗号MEPKCのためのベトリネットの生成法およびその初等T-invariantの計算法”，電子情報通信学会信学技法，Vol.108，No.，pp.5-10（CST2008-42）（2009.01）.
- * 成井，山口，葛，田中：“引継型と請負型のインターワークフローへの動的変更の解析”，電

子情報通信学会信学技法, Vol.108, No., pp.33-38 (CST2008-47) (2009.01).

- * 林, 西田, 倉持, 二宮, 中田, 葛, 吉村: “手書き文字認識のための特徴グラフ生成アルゴリズムの改善”, 電子情報通信学会信学技法
- * M. Nakata, Q.W.Ge, H. Youhata, T. Otsuka and H. Tonou: “Hybrid Multiprocessor Scheduling for Task Graphs without Communication Costs”, Information, Vol.11, No.3, pp.341-350 (2008.05)
- * T. Otsuka, H. Youhata, Q.W.Ge, M. Nakata, Y. Moriyama and H. Tonou: “A Model of Multiprocessor System with Communication Delays and Its Scheduling Method,” Proc. ITC-CSCC2008, pp.289-292 (2008).
- * S. Yamaguchi, T. Narui, Q.W.Ge, Minoru Tanaka: “On Verification and Application of Behavioral Inheritance for Parallel Synchronized Interworkflows,” Proc. ITC-CSCC2008, pp.309-312 (2008).
- * M. Hayashi, S. Nishida, M. Nakata, Q.W.Ge, M. Yoshimura: “A Method of Generating Feature Graph for Handwritten Character Recognition of Japanese Historical Documents,” Proc. ITC-CSCC2008, pp.305-308 (2008).
- * G. Yuan, Q.W.Ge, T. Naritomi: “A Japanese Word Study Model for Chinese Learner by Using Petri Net,” Proc. ITC-CSCC2008, pp.809-812 (2008).

(3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)

- * 西村正登『シュプランガーの教員養成論と教師教育の課題』風間書房、2008年9月 (単著、全406頁)
- * 西村正登『現代道德教育の構想』風間書房、2008年10月 (単著、全271頁)